

ショートステイに思う

「子離れしなくちゃ、とは思ってる」「案外この子はなじんでいける力を持っているだろう」……でもっ！「ほんとは手放したくない」「集団生活があらゆる面で厳しいことは、ほかのお母さんから聞いている」……やっぱ簡単にショートステイを利用できない…。障がいのあるお子さんを育てておられる親御さん方の、切実な思いです。こうした声を聞かせていただくたびに、みなさんこのような葛藤に日々苦悩されているのだと、改めて痛感します。そして、すでにサービス利用をされている親御さんも、このような葛藤を乗り越えてこられたことを思い知ります。特にショートステイは、日帰りの日中一時支援にしる、宿泊がともなう短期入所にしる、利用にいたるまでには親御さんの心の揺れが伴うようです。

親御さんの就労、病気やケガ、外出等、どうしてもご本人の生活を誰かに委ねなければならぬとき、頼りになるサービスの一つにショートステイがあります。万一の事態に初めて利用するよりは、少しでも利用経験のあるほうが、親御さんも気持ちに余裕が持たずし、ご本人もその事態を受け入れやすいこととは確かです。また施設側も、知っている利用者さんのほうが、急な依頼でも比較的ス

ムーズに対応できると思われま

しかし、これらを理解しながら、なかなか利用に踏み切れないのには、様々な背景があるようです。「施設」というものに対する抵抗感、「親なんだから頑張らなきゃ」という気負い、利用して余計に本人が不安定になったらどうしようという不安、サービス利用に対する罪悪感や周囲からの批判等々。

たとえば、親御さんの介護負担を軽減する為の利用であっても、親御さんがリフレッシュすることはご本人にとってもよいことです。また、仮にショートステイでご本人が嫌な経験をしたとしても、親御さん自身が「よい経験をした」ととらえ、一緒にそれを乗り越える経験ができれば、嫌な経験をしないままよりも一段と成長が見られるのではないのでしょうか。ただ、このように思えるためにも、やはり葛藤を乗り越える必要があるのかもしれない。

利用のタイミングは人それぞれです。迷いがあるうちは、無理にショートステイなどのサービスを利用することもないと思います。相談室では、みなさんの迷いや葛藤に寄り添い一緒に揺れながら、共に考えていきたいと思っ



できないことが多い分、たくさん期待を裏切っただろうし、時には傷つけてしまったこともあるだろう。だからこそ、できることは精一杯やろうと思っ